



▲ ワレモコウ (バラ科)

日当たりの良い所に生える多年草。花期は夏から秋で花弁はなく、4個のがく片からなる小花が円頭状に集まります。町内には少ないようです。



▲ マアザミ (キク科)

刺のある葉は深裂しロゼット状に広がります。キセルアザミの別名のように花は下向きに咲きます。町内の湿地に普通に見られます。



▲ ツルニンジン (キキョウ科)

つる性の多年草。山野の林の中や林の縁に生えます。夏から秋にかけて大型の花を咲かせます。茎を切ると白い汁が出ます。町内の山野で普通に見られます。

▼ スイカズラ (スイカズラ科)

漢名は忍冬(ニンドウ)。葉は対生し冬は内側に巻いて過ごします。初夏に白い花を開き芳香があり、花後に黄色に変化します。町内に普通に見られます。





▲ クサギ (クマツヅラ科)

葉が悪臭を放つので臭木(クサギ)の名がつけました。このにおいはゆでると消え、食べられるので救荒植物として用いられました。町内に普通に見られます。

▼ カラタチバナ (ヤブコウジ科)

常緑低木で山地に生え、高さ0.2~1m。花期は夏で果実は赤く、長期間枝上に残ります。県内の分布はまれですが、町内には多く見られます。





▲ アケボノソウ (リンドウ科)

湿り気のある所に生える2年草。秋に一度でも霜にあうと黒変して枯れます。町内の水湿地に見られます。



▲ スイラン (キク科)

日当たりの良い湿地に生える多年草。細い地下茎を伸ばしています。花期は秋で、柄のない細長い線状の葉を互生します。町内の湿地に見られます。



▲ ウメモドキ (モチノキ科)

湿地や溪流沿いに生える夏緑低木。庭木としてよく植えられ、雌雄異株なので赤い実ができるのは雌株です。町内ではやや普通に見られます。

▼ ナツハゼ (ツツジ科)

山野に多い夏緑低木。夏の炎天下で美しく紅葉するので、花材として用いられています。黒褐色に熟した果実は酸味があり食べられます。





▲ キキョウ (キキョウ科)

山上憶良の秋の七草の歌にある朝貌(アサガオ)は、キキョウだといわれています。町内の山々では少なくなっています。

コウヤボウキ (キク科) ▶

日本産キク科植物の中で、唯一の木です。1年目の枝に葉と花をつけ、2年目の枝には葉だけをつけます。町内の山地に普通に見られます。



リンドウ (リンドウ科) ▶

秋の花を代表する多年草。以前はいたる所で見られましたが、今では少なくなりました。野生のものの方が紫色が濃いようです。





▲ フユノハナワラビ (ハナワラビ科)

秋から冬、日当たりの良い野原に孢子葉を長く伸ばしています。孢子葉が花穂に似ていることから名付けられました。町内に少ないようです。



▲ コシダ (ウラボシ科)

ウラボシと共に、熊野で一番よく目につく大型のシダです。ウラボシよりも乾いた土地に耐えることができます。町内には普通に見られます。



▲ キジ♂ (キジ科 留鳥)

町内の荒地や山林にすんでいます。特に、山に続く畑によく出てきますが、警戒心が強くめったに姿を見せません。繁殖期になると雄はケ・ケーンという大きな声で鳴き、ドドド…と翼で音をたてます。



▲ キジ♀ (キジ科 留鳥)

雄よりさらに見つけにくいのが雌です。自然にとけこむような地味な色で、草かげにじっとしていると全く見つかりません。



▲ カワセミ (カワセミ科 留鳥)

川や池にすんでいて、主に魚を食べています。色彩の美しさや水中に飛び込む行動など、よく知られています。注意して探すと、あちこちの川沿いなどで見られます。



▲ ゴイサギ（サギ科 留鳥）

昼間は川や池の近くの林や竹やぶに集まって休んでいる姿をよく見かけます。夕方から夜になると川や池に散らばって活動を始めます。餌は主に魚ですが、ザリガニなども食べます。夜、飛びながらクワッ、クワッとカラスに似た声で鳴くので、「夜がらす」と呼ばれています。



▲ ヤマセミ ♂ (カワセミ科 留鳥)

生活の様子はカワセミと似たところがありますが、カワセミよりはるかに大きく、生息数は多くありません。町内ではこれまで2カ所で繁殖が確認されています。



▲ カイツブリ (カイツブリ科 留鳥)

町内にたくさんある溜池を注意深く探すと見つけることができます。カイツブリは危険を感じたり、餌をとったりする時は水にもぐってしまうので、そっと観察することが大切です。警戒を解くとかわいいヒナを連れて、池の中央に出てくることもあります。



▲ セグロセキレイ (セキレイ科 留鳥)

川に沿った道を歩いていると必ず出会うなじみ深い小鳥で、日本だけに生息しています。スマートで波状に飛びながらジッ、ジッとややにごった声で鳴きます。止まったとき腰を上下にふる行動は、セキレイの仲間共通の特徴です。



▲ ヤマガラ (シジュウカラ科 留鳥)

町内の山林に多く繁殖している小鳥です。時には住宅地の近くにも現れることがあります。木の実を好んで食べ、特にエゴノキの実などは大好物です。木の実を樹皮のすきまなどに貯える習性があります。



▲ ニュウナイスズメ (ハタオリドリ科 冬鳥)

広島県内でも見られる場所は限られています。熊野町では10月のほんの一時期、呉地橋附近の農地に姿を見せます。スズメによく似ているので、よほど注意して観察しないと見逃してしまいます。

スズメとニューナイスズメ

大きさや、羽の色がよく似た小鳥です。スズメの成鳥には頬(ほう)に黒斑があるが、ニューナイスズメにはないので、見分けられます。

また、スズメは1年中見られる留鳥です。